

# 地域おこし協力隊 退任のごあいさつ

(任期：平成25年10月1日～平成28年9月30日)

## 「3年間の感謝と 未来への挑戦」



松ヶ崎地区担当  
李 佳

2011年に初めて留学生として佐渡に来た時にはこんなに長く佐渡に暮らすことになるとは思ってもよくなかったです。まるで何かにひきつけられたかのように佐渡に足しげく通い、そして移住を決意し協力隊として3年間佐渡で生活してきました。佐渡移住の決め手の30%はおいしいイカがあるからとよく冗談で話をしていますが、佐渡生活は豊かな自然がすぐそこにあることが私にとって最大の魅力です。どんなに疲れていても小倉峠を越えて雪の金北山が見えてくると、ほっと体が緩んで「ああ私はこの風景のために佐渡に来たんだよな。やっぱり来てよかった。」と思います。

協力隊としての仕事は、松ヶ崎地域の誇りの源泉である祭りに合わせ、「女子的！佐渡の祭りの楽しみ方」というイベントを開催しました。

また、12月にはクリスマスナイトマーケットを開催し、多田で2時間限定の魔法がかかったような夢の空間を作りました。そして、松ヶ崎の空き店舗をお借りして、ショーウィンドウに季節ごとの飾りつけもしました。

伝統と習慣が地域にあるのであれば、少しでもそれらと違うべくトルで地域の可能性を提案してみることによって地域発展の振り幅ができて選択肢と多様性が増え支援者も増えるはずだと私は信じてきました。それを快く受け入れてくれて、最大限の支援と手助けを、そして一緒にやって楽しんでくれた松ヶ崎地域の方には本当に感謝しきれないと思います。

松ヶ崎地域の方々を見ると、本当に地域愛があつて、涙ぐましい努力と楽天的精神の持ち主だと思つています。「どうしてこんないいところの人口が少なくなっていくのか」着任当初から不思議に思つていくことの答えがいまだにできていません。

それでも未来はきつともっとよくなる切に願ひながら、今後もかわつていきたいと思います。

## 「本番はこれから」



小木地区・宿根木担当  
渡辺 南風

島での暮らしに憧れて佐渡に来てから3年が経とうとしています。今では地元の新潟市よりも佐渡に詳しくなりました。

はじめは生活も仕事も慣れない事が多く、その中で少しずつ信頼関係ができ、自分のできる事が増えていくと自信にもつながりました。この地域の人たちによって活かされていることを日々感じていきます。

協力隊としては、観光客が年々増加している宿根木で観光案内やガイド、公式ホームページの立ち上げなどを行ってきました。中でも昨年4月から本格スタートした「町並み案内所」では、地元の人とお客さんが直に接することでコミュニケーションが生まれ、お互いの意見を取り入れながらより良い関係ができたので、今後の観光客の受け入れに活かさせていけると思います。

そのほか、小木地区を半日楽しめ

るモデルコースやランチマップを作成し、対岸の上越市へ配布しました。小木町の商店街が中心となった「扇の市」の企画など、観光客に宿根木以外のお木半島の楽しみ方を伝えることにも意識を置いてきました。小木の人たちは自分たちの歴史を大切にしながら、時代や状況に合わせて変化したり外からの声にも耳を傾けてくれたりと、とても柔軟な姿勢を持つていることが大変ありがたかったです。

また、この3年間で「続けること」の大切さと難しさを実感する場面に何度も出会いました。そのたびに、協力隊が何か起こすのではなく、起こそうとする人たちの背中を押すことも同じくらい大切ではないかと考えるようになりました。地域を存続させていこうと長年地元で頑張ってきた人たちに協力隊のようなよそ者が寄り添い、佐渡がこれからも盛り上がりつついけたらと思います。地域と私の関係もこれからは本番です。今後は一人の市民として地域おこしに携わり続けたいと思います。

3年間ありがとうございました。